

関東地域の火山由来地盤の災害事例研究と地域特性に関する研究委員会
地盤特性グループ打合せ

議 事 録 (案)

日 時 平成 23 年 1 月 24 日 (月) 15 時 00 分～18 時 00 分

場 所 社団法人地盤工学会 (東京都文京区千石 4-38-2) 3 階会議室

出席者(敬称略) 村上, 大里, 中澤, 山田, 宇高

議事録者 宇高

資料 1. 打合せ資料

議 事

1. 作業の進め方
2. 報告書記載内容
3. 今後の作業

【作業の進め方：全般】

- ・ 前回までの審議内容を確認
- ・ 設計・施工を分けずに。対象構造物ごとがまとめやすい
- ・ 県, 市など, 自治体の設計施工指針 (地域特性がみられるのでは?)
→特徴的なもの, その理由
e.g. 静岡県の耐震, 川崎市・横浜市の斜面安定
- ・ 道路などの設計法に地域特性は無さそう
→宅地造成など, 建築分野では地域ごとに異なる可能性高い
- ・ 多摩ニュータウンを例にとっても, 盛土の新旧で工法が異なる
- ・ 破碎性地盤の委員会, 宅地造成に関する委員会など, 周辺委員会の動向
- ・ 物性値の分布をプロットする上で, 論文レベルでは取り扱いづらいので, 国交省の公開データ (kunjiban: 柱状図と試験データ ; <http://www.kunjiban.pwri.go.jp/>), 自治体所有データ等を活用
- ・ しらすは, 関東地方では山梨県甲府盆地に存在 (黒富士火砕流)
- ・ 関東ローム→鋭敏比高い

一軸圧縮試験で、なぜ鋭敏比を調べなくなったか？

- ・ 破砕性材料のため、通常行われる（CUbar でない）全応力での評価法では適正に評価されない
- ・ 化学的性質について、南関東では酸性、北関東ではアルカリ性と言われている。地盤改良の有効性など、価値があるようなら残したい

【報告書記載内容】

§ 1 物性の地域特性

§ 2 設計・施工上の地域特性

- ・ 宅地などが中心か
- ・ 読者を意識すると、対象構造物ごとという切り口も必要

§ 3 物性値および設計施工上の特徴の地域分布状況から抽出される課題

- ・ 特筆すべき地盤（白タフなど、施工が困難な地盤）

§ 4 今後の課題

- ・ 力学特性の評価，試験方法の変遷

【今後の作業】

- ・ 収集した論文から、最新のトピックを抽出
- ・ 物性値は昔のものも含む
- ・ 地域特性は論文からエリアごとに整理
- ・ その他、物性値で有効な国のDB（kunijiban）から収集
→マンパワーが必要→本年度予算で作業を依頼？
- ・ 現リストに位置情報（緯度経度情報が後工程に有利），課題とその対策法を追記
※位置情報は、手書きレベルの簡易なものでも可
- ・ 火山で6地域程度にエリア分け（大里委員にてご検討）
- ・ これまでの火山由来土の考え方は、2章など前段に記述（大里委員にてご検討）
- ・ 自治体ごとの基準類のチェック

【次回】

2月22日（火）15時より

（作業の中間報告と、方針の妥当性の確認）

以上